



東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

# 学内広報

for communication across the UT



特集：

本郷の「門」、駒場の「門」

2007.6.27

No. 1360

先頃、本郷キャンパスでは、春日門、西片門が相次いで開通しました。また、懐徳門は現在、工事が進められています。そこで、今回の特集では、3つの新しい門も含めて本郷・駒場の「門」をあらためてご紹介します。

## 浅野正門

(あさのせいもん)

言問通りから一本路地に入った閑静な住宅地の中に、浅野正門があります。どちらかというと、門というよりは駐車場へのゲートといった雰囲気です。正面にある建物は、かの有名な武田先端知ビルです。



最寄り駅

千代田線  
根津駅

## 浅野南門

(あさのみなみもん)

浅野正門から住宅地をさらに少し行くと、背が低くかわいらしい浅野南門が見えてきます。門柱には大きな「東京大学」の文字が刻まれています。門をくぐると、右手は情報基盤センター、左手は低温センターです。

最寄り駅 千代田線 根津駅



## 弥生門 (やよいもん)

あの夏目漱石の小説「三四郎」の主人公も通ったであろう弥生門は、龍岡門と同じく内田祥三の作品です。弥生門という名前から勘違いしがちですが、弥生キャンパスではなく、本郷キャンパスの裏手にあります。

最寄り駅 千代田線 根津駅 南北線 東大前駅



## ★西片門 (にししかたもん)

本郷通りに面して、工学部5号館脇に新しくつくられたのが西片門です。赤レンガの外壁となじむようにデザインが統一されていて、昔からあったような趣があります。東大で唯一、門を

くぐると階段になっているので、自転車の方は面倒でも正門まで回りましょう。

最寄り駅

南北線  
東大前駅



本郷  
弥生  
浅野  
キャンパス



● 以前からある門

★ 今年、新しくできた門

## 農正門 (のうせいもん)

弥生キャンパスの玄関口となる農正門は、平成15年に全面改修が行われました。内田祥三の作品である古い門は、弥生講堂の中庭にモニュメントとして設置され、新たな役割を果たしています。こうして新しく生まれ変わった木曽ヒノキ製の門扉や、訪れるひとを出迎えるかのように正面にたたずむ大きな木は、農学部らしい雰囲気をかもし出しています。

最寄り駅 南北線 東大前駅



## 池之端門 (いけのはたもん)

附属病院の裏手にある門。3つの門柱の前にそれぞれ進入禁止の標識がついているのがめずらしいです。近くには病院で働く看護師の方の宿舎があり、門を出ると不忍池まではすぐです。



最寄り駅

千代田線 湯島駅

## 鉄門 (てつもん)

名前の由来となった旧医学部本部棟の「表門」(後の鉄門)は、大正7年に鉄門外の民有地を購入した際にその必要性がなくなり撤去されました。現在の鉄門は、医学部及び附属病院の創立150周年記念事業の一環として、平成18年6月に再建されたものです。



最寄り駅

千代田線 湯島駅

## 正門 (せいもん)

安田講堂に向かいあうように位置しているのが、本郷キャンパスの正門です。四季折々で様変わりする銀杏並木が美しく、ここから眺めるキャンパスの風景は、ご覧のとおり圧巻です。門扉は元々、木製でしたが、明治45年に鉄製に作りかえられました。さらに昭和63年にアルミニウム合金製に改修され、現在に至っています。駅からはけっこう距離があるので、都バスの東43系統、茶51系統の東大正門前バス停を利用するのもいいでしょう。

最寄り駅

南北線 東大前駅  
丸の内線・大江戸線 本郷三丁目駅



## 龍岡門 (たつおかもん)

春日通りから病院通りに入って少し歩くと、本部棟のほど近くに龍岡門があります。関東大震災後のキャンパス復興に尽力した内田祥三の作品のひとつです。門扉がないのが特徴で、24時間開放されています。元々は木製の扉があったのですが、平成6年に道路拡張が行われた際に取り払われて、現在のような形になりました。

最寄り駅

丸の内線・大江戸線 本郷三丁目駅  
千代田線 湯島駅



## 赤門 (あかもん)

正式名称は旧加賀藩屋敷御守殿門で、重要文化財に指定されています。名実ともに東大で最も有名な門のため、ここを正門だと勘違いする方もけっこういらっしゃるようです。ちなみに、東大の学生がガイドになって構内を案内するキャンパスツアーは、ここが起点になっています。

最寄り駅

丸の内線・大江戸線 本郷三丁目駅



## ★懐徳門 (かいとくもん)

総合研究博物館脇に新設される予定の門です。門自体、懐徳館の旧洋館レンガ造基礎を利用してデザインされています。懐徳門ができると、本郷三丁目駅にいちばん近い門となり、アクセス至便なので完成が待ち遠しいところです。

最寄り駅

丸の内線・大江戸線 本郷三丁目駅



現在、  
工事中

## ★春日門 (かすがもん)

その名の通り、春日通りにちなんで刷新された門です。本郷消防署の脇にあり、入ると情報学環・暫定アネックスや産学連携プラザ、そして新築のアントレプレナープラザなどがあります。また、門からまっすぐ進んだつきあたりに、ヤギ小屋があるのをご存知ですか？ 東大の研究の幅広さを実感できるので、一見してみてもいいかもしれません。

最寄り駅

丸の内線・大江戸線 本郷三丁目駅



## 北門 (きたもん)

別名・野球場門。現在は閉鎖されています。

## 裏門 (うらもん)

小田急線代々木八幡駅、または、小田急線・千代田線代々木上原駅へ向かうには、この門から。

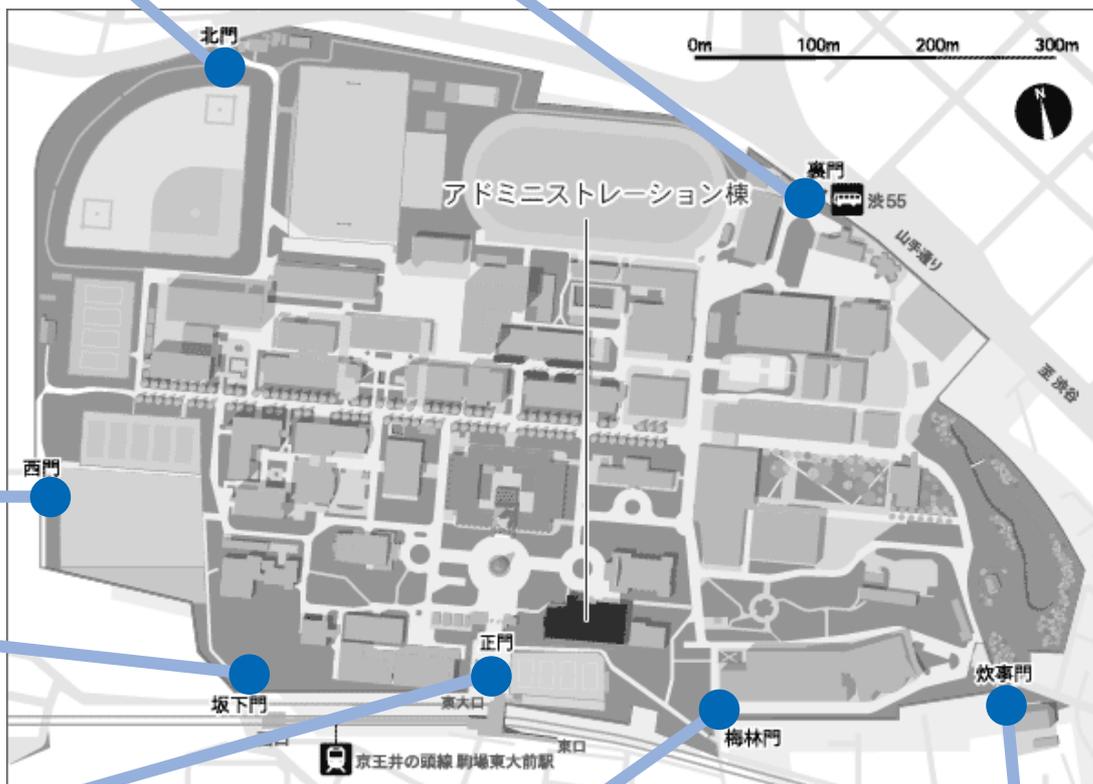
駒場Ⅰ  
キャンパス

## 西門 (にしもん)

駒場Ⅰキャンパスと駒場Ⅱキャンパス間の移動に便利なのが、この西門です。ここから出ると、閑静な住宅街が続いています。

## 坂下門 (さかしたもん)

京王井の頭線駒場東大前駅の西口に出るには、この門から。



## 正門 (せいもん)

京王井の頭線駒場東大前駅東大口からもっとも近い、駒場キャンパス正門。この門は一高時代の正門をそのまま引き継いだものです。特徴ある透かし模様の中央には、柏とオリーブをモチーフにした一高の校章が嵌め込まれています。



## 梅林門 (ばいりんもん)

名前から推測できるとおり、梅林の脇にある門です。が、「門」という名ではあるものの、下の写真のように、門扉がない通用口となっています。また、ここから駒場図書館に向かう途中には、矢内原門（やないはらもん）跡があります。その由来は、学生が試験ボイコットで正門前にピケットを張った際に、矢内原忠雄初代教養学部長がここを通路としたことによると言われています。



## 炊事門 (すいじもん)

一高時代、寮の賄いのための通用門として食材などが運び込まれていた門。その当時、一高に出入りする際には正門のみを利用することとなっていたため、賄い用以外でこの門を通る人はいなかったそうです。渋谷駅まで歩いていこうか……という方はこの門からどうぞ。



いかがでしたか？ 本郷・駒場のそれぞれの「門」。本学の教職員と言えども、普段、自分の職場から遠い「門」はなかなか通らないものです。それだけに、通り慣れていない「門」を通ってみると、とても新鮮に感じます。今回、私たち、学内広報スタッフも、それぞれの門の写真を撮影して回りましたが、とても楽しく「門めぐり」ができました。皆さんも、散策がてら、縁遠い門まで出かけてみてはいかがでしょうか。

お問い合わせ：総務部広報課 内線82032,22031 E-mail:kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

# NEWS

## 一般ニュース



総務部

春の公開講座  
「グローバル化」  
大盛況のうちに終了

第106回（平成19年春季）東京大学公開講座「グローバル化」が、4月7日（土）～6月2日（土）にかけて行われた。

今回の公開講座の企画委員長は植田和男・経済学研究科長が務めた。「～世界をかけめぐるヒト・モノ・カネ その光と影～」という副題のとおり、グローバル化を多様な側面から一光の面だけでなく、影の面も含めて一考察しよう、という試みであった。

講座は植田企画委員長自らグローバル化について概説する「入門・グローバル化」で幕をあげ、グローバル化について、歴史、経済、農業、安全保障、環境、技術、文化、教育など、様々な観点から論じる講義・ディスカッションが行われた。



超満員となった安田講堂

「グローバル化」という、否が応にも私たちが直面しなければならない、時代に即した大変興味深いテーマであったこと、積極的に広報活動を展開したこともあり、来場者数は、毎回1,000人を超え、50年以上にわたる公開講座の歴史の中で過去最高の動員を記録した。

このような盛況に応えるため、最終日には予定を変更し、小宮山宏総長が「世界の持続的発展と『課題先進国』」と題し、30分以上にわたって熱のこもった講義を展開し、こちらも聴講者に大変好評を博していた。



熱弁をふるう小宮山総長

今回の公開講座にご協力いただいた全ての教職員の皆様に、この場をかりて厚く御礼申し上げます。

今回の講義の様子は、2～3ヵ月後にTODAI TVおよびポッドキャスト形式で公開される予定です。

なお、次回の公開講座は9月下旬～10月下旬にかけて行われる予定ですので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

### 公開講座「グローバル化」プログラム概要

- 4月7日（土）「グローバル化と国家・社会・経済」  
植田和男・高山博・石黒一憲・柳田辰雄
- 21日（土）「グローバル化と食・農業」  
鈴木宣弘・本間正義・伊藤元重・生源寺眞一
- 5月12日（土）「グローバル化と安全」  
山影進・近藤豊・小林和彦・小池俊雄
- 19日（土）「グローバル化と技術」  
坂村健・藤本隆宏・渡辺裕
- 6月2日（土）「グローバル化と人」  
吉川泰弘・恒吉僚子・金子元久・小宮山宏

詳細はホームページをご覧ください。

公開講座：

[http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/d04\\_01\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/d04_01_j.html)

TODAI TV：

<http://todaitv.ep.u-tokyo.ac.jp/>



## 地球観測データ統融合連携研究機構

韓国政府 8 省庁混成代表団、研修のため本学地球観測データ統融合連携研究機構 (EDITORIA) を来訪

5月31日(木)、韓国政府関係者13名が本学を来訪し、14時50分から17時30分まで、医学部教育研究棟第8セミナー室で科学技術を通じた日韓研究交流会「韓国気象局(KMA)による政府代表団研修訪問プログラム」が開催されました。

韓国政府代表団は気象局・気候政策部長のSHIN, SoonHo氏を団長に、気象局より他5名、科学技術省、財務省、国家危機管理庁、国立地図情報研究所、国立海洋研究所、国土交通省、公務員委員会より各1名の総勢13名からなり、全球地球観測システム(GEOSS)関連の科学政策および研究の進捗状況の理解を深めることを目的として、わが国では本学の他に、文部科学省および宇宙航空研究開発機構(JAXA)を、その後訪米して大気海洋庁(NOAA)と環境保護局(EPA)をそれぞれ訪問しました。

本学では、開催に先立ち理事・副学長の岡村定矩先生より歓迎の挨拶と地球観測データ統融合連携研究機構について説明がありました。その後、小池俊雄機構長が韓国政府関係者より予め要請のあった4つのテーマ、①気候・水循環データの統合、②データ統合・解析システム(DIAS)、③情報基盤と相互運用性、④統合地球水循環強化観測期間プロジェクト(CEOP)について講演しました。韓国側からは、メタデータの標準化や登録システムの内容、ダム監視システムによる洪水の事前回避、蓄積したデータの公開方法、アクセス方法などの質問があり、活発な質疑応答となりました。

講演は英語で、質疑応答はLee, Sanghun氏による通訳で日本語と韓国語でおこなわれました。



講演を熱心に聞き入る韓国政府代表団



## ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構

東大NEC企業ラボつくば分室発足記念講演会を開催

本学ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構(INQIE)は6月8日(金)14時から茨城県つくば市のNECつくば研究所で、「東大NEC企業ラボつくば分室発足記念講演会」を開催した。本学にとって民間企業内に連携研究拠点を設置するのは初の試みで、当日は、本学から荒川泰彦機構長、樽茶清悟副機構長ら、教員6名と多数の学生が参加。NEC側も國尾武光執行役員兼中央研究所長、曾根純一支配人(本学客員教授)をはじめ、量子情報処理やシリコンフォトンクス分野などの研究員多数が参加、合わせて50名近い出席者で会場が埋まった。



筑波拠点発足記念講演会で挨拶する荒川機構長



挨拶する國尾NEC執行役員

まずオープニングの挨拶に荒川機構長が立ち、東大内に企業ラボを設けるほか、企業内に東大分室を設けた経緯を説明、「(つくば分室を)産学連携の強い絆を深めるニューコンセプトにしたい」と紹介した。NEC側を代表して國尾執行役員は「大学の英知を活用し、量子力学による第3の波を次の産業のタネを育てる契機にしたい」と決意を込めた挨拶を述べ、研究機構におけるNECの研究の現状については萬伸一研究部長が報告した。

講演の部に入り、はじめに荒川機構長が「量子ドット研究の歴史と展望」について、続いて今井浩教授が「量子情報の展望」について、NECの蔡兆申主席研究員が理化学研究所などと連携して進める「超伝導量子コンピュータ」についてそれぞれ講演を行った。

休憩をはさみ、樽茶副機構長、五神真教授がそれぞれ「電子と量子現象」、「光と量子現象」に焦点をあてた量子を操る研究の現状と展望を講演。最後にNECの田原修一ナノエレクトロニクス研究所長が、カーボンナノチューブをはじめ「NECのナノテクノロジー」について講演し、「材料とデバイス分野で新原理を打ち立て、イノベーションを起こしたい」と締めくくった。

講演会后、NEC研究所内のラボツアー、懇親会を行い、20時半過ぎに散会した。



質問も活発だった講演会風景

**人事部**  
**名誉教授の称号授与**

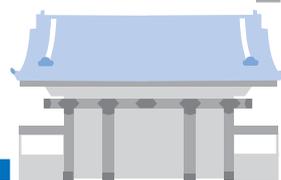
6月19日(火)に開かれた教育研究評議会で、東京大学名誉教授授与規則により、次の元教授65名に名誉教授の称号を授与することになった。

部局	氏名	担当講座名
大・法	CH'EN PAUL HENG-CHAO	比較法原論講座
大・法	伊藤 眞	民事手続法講座
大・法	落合 誠一	企業法講座
大・法	江頭 憲治郎	企業法講座
大・医	桐野 高明	脳神経医学専攻臨床神経精神医学講座
大・医	高橋 智幸	機能生物学専攻生理学講座

部局	氏名	担当講座名
大・医	加我 君孝	外科学専攻感覚・運動機能医学講座
大・医	井原 康夫	脳神経医学専攻基礎神経医学講座
大・医	牛島 廣治	国際保健学専攻国際生物医科学講座
大・医	幕内 雅敏	外科学専攻臓器病態外科学講座
大・医	加藤 進昌	脳神経医学専攻臨床神経精神医学講座
大・工	鎌田 元康	建築環境学講座
大・工	長澤 泰	建築計画学講座
大・工	塩谷 義	航空宇宙推進学講座
大・工	河野 通方	航空宇宙推進学講座
大・工	仁田 旦三	電気エネルギー工学講座
大・文	平野 嘉彦	ドイツ語ドイツ文学講座
大・文	藤田 一美	美学芸術学講座
大・文	桜井 由躬雄	東洋史学講座
大・理	和達 三樹	物理学専攻数理物理学講座
大・理	濱野 洋三	地球惑星科学専攻地球惑星システム科学講座
大・理	奈良坂 紘一	化学専攻有機化学講座
大・理	梅澤 喜夫	化学専攻無機・分析化学講座
大・理	西郷 薫	生物化学専攻生物化学講座
大・理	長田 敏行	生物科学専攻植物科学講座
大・農	會田 勝美	水圏生命科学講座
大・農	阿部 宏喜	水圏生命科学講座
大・農	岩本 純明	農業構造・経営学講座
大・養	太田 浩一	自然構造解析学講座
大・養	谷内 達	複合系計画学講座
大・養	跡見 順子	運動適応科学講座
大・養	浅島 誠	生命情報学講座
大・養	川合 慧	情報システム学講座
大・養	石井 明	国際関係論講座
大・養	竹内 信夫	言語態分析講座
大・養	宮本 久雄	比較文学比較文化講座
大・養	馬淵 一誠	生命情報学講座
大・養	岩田 一政	国際協力論講座
大・養	福林 徹	認知行動科学講座
大・養	草光 俊雄	多元世界解析講座
大・育	土方 苑子	教育学講座

部局	氏名	担当講座名
大・育	佐藤 一子	生涯学習基盤経営講座
大・育	三浦 逸雄	生涯教育計画講座
数理	松本 幸夫	大域幾何学講座
数理	高橋 陽一郎	離散数理講座
創域	大森 博雄	自然環境学専攻陸域環境学講座
医科	高津 聖志	感染・免疫部門
医科	竹縄 忠臣	癌・細胞増殖部門
医科	澁谷 正史	癌・細胞増殖部門
医科	御子柴 克彦	基礎医科学部門
地震	阿部 勝征	地震予知情報センター
社研	平石 直昭	比較現代政治部門
生研	高木 堅志郎	基礎系部門
生研	榊 裕之	情報・エレクトロニクス系部門
生研	坂内 正夫	概念情報工学研究センター
生研	魚本 健人	都市基盤安全工学国際研究センター
物性	高橋 實	物性理論研究部門
物性	高山 一	附属物質設計評価施設
海洋	寺崎 誠	国際沿岸海洋研究センター
海洋	小池 勲夫	海洋化学部門
海洋	太田 秀	海洋生態系動態部門
海洋	平 朝彦	海洋科学国際共同研究センター
先端研	後藤 晃	技術経済論
R I	卷出 義紘	研究開発部門
産学	安田 浩	応用情報工学

## 部局 ニュース



### 大学院数理科学研究科

高木レクチャーが東大で開催されました

類体論を確立した世界的な数学者であり、数学の国際賞として最も栄誉のあるフィールズ賞の第1回選考委員(1932)も務められた高木貞治先生(1875-1960)のお名前を冠した講演会「高木レクチャー」が5月26日(土)・27日(日)に駒場の数理科学研究棟で開催されました。

高木貞治先生は、1904年から1936年まで本学教授をされ、今日まで読みつがれている教科書『解析概論』を1938年に出版しておられます。



歓迎の挨拶を述べる桂利行研究科長



熱気につつまれた講演

今回、日本数学会と大学院数理科学研究科の共催となった「高木レクチャー」では、世界から3人の国際的数学者、ネーブ教授(独)、ヴォイキュレスキュ教授(米)、ヨール教授(仏)が講演者として招かれ、2日間にわたって壮大な数学理論の連続講演が行われました。土・日

にもかかわらず100人以上の聴衆が集まり、会場は熱気につつまれました。

「高木レクチャー」は、数学者の名前を冠した定期的な講演会として日本で最初のもので、1924年から継続して出版されていた日本発の数学欧文誌JJMの存続の危機を救うことと連動して、日本数学会の理事であった本学の小林俊行教授が立案し、日本数学会が母体となって行われることが2006年に決定した新しい企画です。

毎年、世界的に卓越した数学者を講演者として招聘し、気概に満ちた研究総説講演を若手研究者・大学院生を含む専門分野を超えた数学者が聴くことにより、創造のインスピレーションを引き起こし、新たな数学の発展に寄与することを目的としています。

#### 大学院農学生命科学研究科・農学部

創立130周年記念事業シンポジウム  
「イネのバイオエタノール化による持続的社会的構築」開催される

本研究科の産学官民連携型農学生命科学研究インキュベータ機構（アグリコクーン）の「農学におけるバイオマス利用研究フォーラムグループ」の活動から、イネのバイオエタノール化による持続的社会的構築を進めるために「イネイネ・日本」プロジェクトが立ち上がり、5月30日（水）に弥生講堂において表記のシンポジウムが開催された。地球温暖化対策やエネルギー保障の観点から、世界的にバイオ燃料の利用が進められている。世界トップのブラジルではサトウキビ、アメリカではトウモロコシからバイオエタノールを作っている。日本では、生産調整で使われていない水田を中心にイネを栽培し、玄米だけでなく、籾殻やワラも含めたホールクロップ利用でバイオエタノールを作れば、温暖化対策だけでなく、国土保全や農村振興を同時に進めることができると考えられる。



シンポジウム会場

シンポジウムでは、海外出張中の小宮山宏総長からのメッセージと生源寺眞一研究科長からのご挨拶（研究科

HP参照、<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/dean/ine.pdf>）のあと、生産技術研究所の迫田章義教授、農林水産省大臣官房環境政策課の末松広行課長、および本研究科の横山伸也教授が、日本におけるバイオマス利用の現状や、イネを利用したモデルについての基調講演を行った。その後、豊田中央研究所の高橋治雄氏が民間企業からみたバイオマスの利用について、また岩手県奥州市の菅原浩氏が地域における実践活動について講演した。最後に本研究科の森田茂紀教授がプロジェクトの目指す方向と課題について話題提供して、総合討論を行った。

参加者は450名ほどで、常時、立ち見ができる盛況であった。また、参加者に企業関係者や自治体関係者が多いのが特徴であり、日本における関心の高さが窺われた。本シンポジウムについては一部のマスコミに取り上げられたため、その後も問い合わせが続いている。その受け皿としての研究会を立ち上げ、産業化の実現を目指していく予定である。



パネルディスカッション

今年で34回目となる医科研創立記念シンポジウムが6月1日（金）13時から医科学研究所講堂において開催された。

上述シンポジウムは、医科学研究所が1967年に伝染病研究所から改組されたのを記念して1974年より毎年6月1日前後に開催されてきた。今回は、医科学研究所の改組から40周年目となり、北里柴三郎博士による伝染病研究所設立から115年目にあたり、医科学研究所の最先端の話題を紹介するシンポジウムとして、各分野で先進的研究を展開している所内の先生方に「医科学研究の最前線」というテーマに基づいてプログラムが構成された。



清木元治所長による開会挨拶



フラッシュトークに熱心に聞き入る参加者

清木元治所長の開会の辞に引き続き、遺伝子動態分野・中村義一教授による『「かたち」を創るRNA - 基礎から創薬へ』、ウイルス感染分野・河岡義裕教授による『パンデミック・インフルエンザ—過去と未来—』、癌細胞シグナル分野・山本雅教授による『蛋白質リン酸化シグナルからみる癌・細胞増殖』、15分の休憩をはさみ、細胞機能研究分野・岩倉洋一郎教授による『疾患モデルを用いた自己免疫発症機構の解析』、ゲノムシーケンス解析分野・中村祐輔教授による『ゲノム医科学からゲノム医療へ』、最後に分子療法分野・東條有伸教授による『医科研病院における細胞移植医療の過去・現在・未来』について、各々40分間の講演が行なわれた。

詳しい講演内容やプログラムについては、医科学研究所ホームページで公開しているのでご覧ください。

<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imswww/index-j.html>

講演会場の医科学研究所講堂は、例年のことであるが、所内外からの多くの参加者で満席となり、各講演を熱心に聴講し、本研究所シンポジウムへの関心の高さが窺われた。

また、医科研シンポジウムに先立ち、前日の5月31日（木）13時半から講堂を会場に、医科研に所属する若手研究者による1分間スピーチ「フラッシュトーク」（研究成果発表会）が昨年に引き続き開催され、若手研究者が熱心に研究の成果報告を行った。また、5月31日（木）～6月1日（金）の2日間、アムジェンホールにてポスター発表会がフラッシュトークと連動する形式で行なわれた。

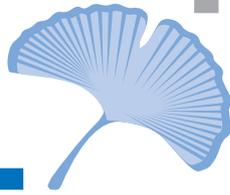


ポスター会場

この創立記念のイベントには延べ350人が参加し、そして、61件のポスター発表の中から投票により最優秀ポスターが選ばれ、シンポジウム終了後の医科研恒例の野外パーティーにおいて、所長から、表彰状及び記念品が授与された。



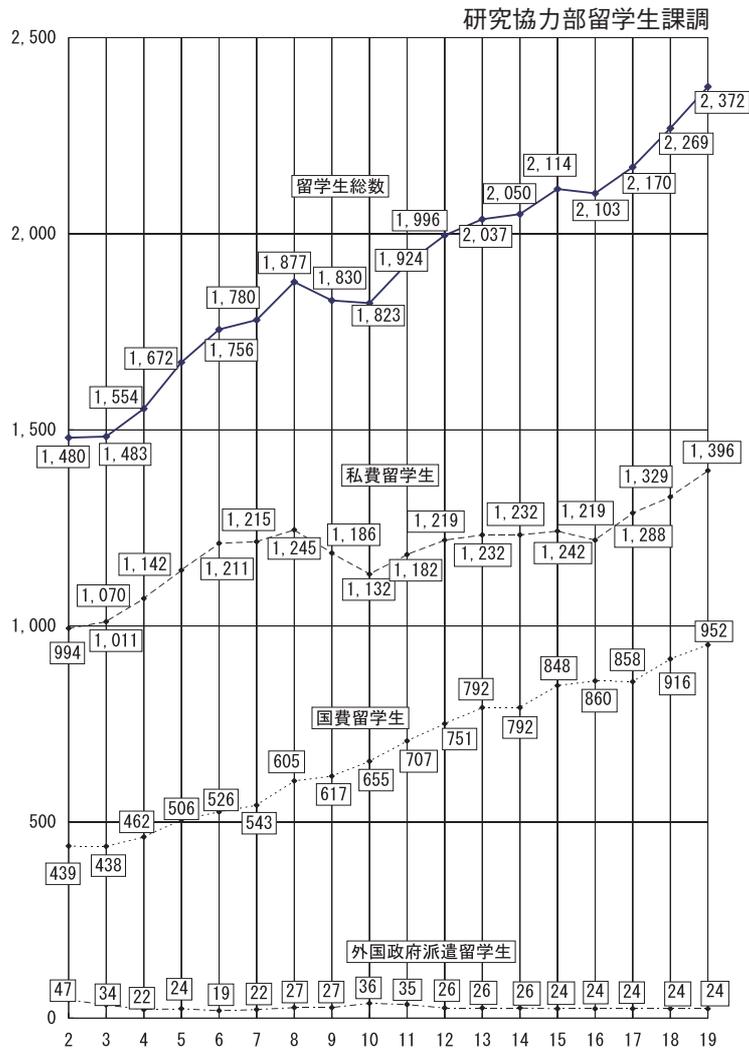
ポスター発表会表彰式



平成19年度外国人学生数—国費外国人留学生数  
952人、私費外国人留学生数1,396人、外国政府派  
遣留学生数24人、在日外国人学生数182人—

本学では、毎年5月と11月の年2回、同月1日現在の外国人学生数を調査している。これをもとに各年度5月1日現在の外国人留学生数の推移を以下に示した。また、本年5月1日現在の外国人学生数は次頁以降のとおりである。

### 東京大学外国人留学生受入数の推移 (各年度5月1日現在)



### 全学生数に対する外国人留学生数の比率

事 項	A 全学生数 (人)	B 日本人学生数 (人)	C 外国人留学生 (人)	C/A 比 率	平成18年度 比 率
学部レベル	14,492	14,133	263	1.81%	1.86%
大学院レベル	14,211	12,038	2,109	14.84%	13.91%
計	28,703	26,171	2,372	8.26%	7.84%

※全学生数欄には在日外国人学生を含む。  
※研究所に所属する外国人研究生は、大学院レベルを含む。  
※比率欄の数は四捨五入。

平成19年度 外国人学生数

平成19年5月1日現在

区分	学部				大学院								研究所		合計		
	学生		研究生等		修士課程		博士課程		外国人研究生等		大学院研究生		研究生		男	女	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
国費(a)	75	41	0	0	140	96	270	139	116	73	0	0	2	0	603	349	
	116		0		236		409		189		0		2		952		
外国政府派遣	シンガポール	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	
		1		0		1		0		0		0		2			
外国政府派遣	タイ	5	3	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	8	4	
		8		0		3		1		0		0		12			
外国政府派遣	マレーシア	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	
		1		0		0		1		0		0		2			
外国政府派遣	韓国	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	
		8		0		0		0		0		0		8			
	計(b)	14	4	0	0	4	0	1	1	0	0	0	0	0	19	5	
		18		0		4		2		0		0		24			
私費(c)		41	42	20	11	222	184	328	262	91	101	4	5	7	3	713	608
		83		31		406		590		192		9		10		1,321	
小計(d)((a)+(b)+(c)) (在留資格「留学」の者)		130	87	20	11	366	280	599	402	207	174	4	5	9	3	1,335	962
		217		31		646		1,001		381		9		12		2,297	
私費(e) (在留資格「留学」以外の者)		11	4	0	0	3	10	15	12	7	12	1	0	0	0	37	38
		15		0		13		27		19		1		0		75	
外国人留学生合計(f) ((d)+(e))		141	91	20	11	369	290	614	414	214	186	5	5	9	3	1,372	1,000
		232		31		659		1,028		400		10		12		2,372	
在日外国人学生(g)		102	15	0	0	30	8	19	8	0	0	0	0	0	0	151	31
		117		0		38		27		0		0		0		182	
外国人学生 総計 (f+g)		243	106	20	11	399	298	633	422	214	186	5	5	9	3	1,523	1,031
		349		31		697		1,055		400		10		12		2,554	

学部及び研究科等別外国人留学生数

平成19年5月1日現在

区分	学部				大学院								研究所		小計		合計
	学生		研究生等		修士課程		博士課程		外国人研究生等		大学院研究生		研究生		国費	私費	
	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費			
学部	法学部	5	8												5	8	13
	医学部																
	工学部	24	22		8										24	30	54
	文学部	9	2		1										9	3	12
	理学部	7	5												7	5	12
	農学部	1	2		1										1	3	4
	経済学部	5	9												5	9	14
	教養学部	63	65		21										63	86	149
	教育学部	2													2		2
	薬学部		3													3	3
小計	116	116		31										116	147	263	
大学院	人文社会系研究科					11	25	14	63	27	23		1		52	112	164
	教育学研究科						15	5	26	7	15		1		12	57	69
	法学政治学研究科					8	23	13	23	7	7				28	53	81
	経済学研究科					7	12	1	7	3					11	19	30
	総合文化研究科					30	24	31	101	31	39		1		92	165	257
	理学系研究科					6	5	14	12	7	5				27	22	49
	工学系研究科					73	163	176	174	37	59		4		286	400	686
	農学生命科学研究科					9	22	62	54	15	10		3		86	89	175
	医学系研究科					6	30	25	74	10	16				41	120	161
	薬学系研究科					3	2	4	7	2					9	9	18
	数理科学研究科					5	3	9	1	2	1				16	5	21
	新領域創成科学研究科					28	47	26	35	9	10				63	92	155
	情報理工学系研究科					35	25	21	29	17	2				73	56	129
	学際情報学府					12	16	8	13	15	23				35	52	87
公共政策学教育部					3	11				1				3	12	15	
小計					236	423	409	619	189	211		10		834	1,263	2,097	
研究所	医科学研究所												3		3	3	
	地震研究所																
	生産技術研究所												7		7	7	
	分子細胞生物学研究所																
	物性研究所																
	海洋研究所												2		2	2	
先端科学技術研究センター																	
小計												2	10	2	10	12	
合計	116	116		31	236	423	409	619	189	211		10	2	10	952	1,420	2,372

(注) ①外国政府派遣留学生は、私費の欄に含む。

(注) ②法学政治学研究科専門職学位課程学生2名、医学系研究科専門職学位課程学生4名及び公共政策学教育部専門職学位課程学生14名は、修士の欄に含む。

国又は地域別外国人留学生数

平成19年5月1日現在

国名又は地域名	国 費						私 費						合 計						総計		
	学部		大学院等		小計	学部		大学院等		小計	学部		大学院等		小計						
	学生	研究生等	修士	博士		研究生等	学生	研究生等	修士		博士	研究生等	学生	研究生等		修士	博士	研究生等			
アジア																					
パキスタン			3	6	2	11			4	2	6						7	8	2	17	
インド				9	2	11			2		2						2	9	2	13	
ネパール	1			5	2	8			6	4	10	1					6	9	2	18	
バングラデシュ	2		3	12	1	18			7	8	15	2					10	20	1	33	
スリランカ	1		3	7	1	11			9	8	18	1					12	15	1	29	
ミャンマー			3	4	4	11			4		4						7	4	4	15	
タイ	7		22	24	11	64	8		10	8	33	15					32	32	18	97	
マレーシア	5		1	6	5	17	1	1	2	3	7	6	1				3	9	7	26	
シンガポール	1			4	1	6	1	1	3	4	9	2	1				3	8	1	15	
インドネシア	7		13	18	4	42	1	1	12	11	27	8	1				25	29	6	69	
フィリピン			4	16	1	21			1	4	6						5	20	1	27	
中国(香港)			1	3	1	5				4	4						1	7	1	9	
韓国	18		48	81	28	175	20	7	84	196	52	359	38	7			132	277	80	534	
モンゴル	13		5	3	2	23	2		4	3	9	15					9	6	2	32	
ベトナム	24		20	8	2	54	3	1	10	16	2	32	27	1			30	24	4	86	
中国	4		23	80	35	142	74	4	196	225	81	580	78	4			219	305	116	722	
カンボジア	2		2	1	1	6			3	1	5	2					5	2	2	11	
ラオス	2		1			3			3	2	5	2					4	2		8	
マカオ	2					2					1	1	2							3	
台湾									41	67	33	141					41	67	33	141	
モルディブ					1	1														1	
小計	89		152	287	103	631	110	16	401	566	182	1,275	199	16			553	853	285	1,906	
中近東																					
イラン	1		3	9		13			2	2	5	1					5	11	1	18	
トルコ			3	8	3	14	1		2	5	8	1					5	13	3	22	
シリア			1			1											1			1	
レバノン				4		4												4		4	
イスラエル					3	3				1	1							1	3	4	
ヨルダン					1	1													1	1	
イラク				1		1													1	1	
サウジアラビア											1	1							1	1	
アフガニスタン						1													1	1	
イエメン					1	1													1	1	
オマーン			1			1											1			1	
小計	1		8	23	8	40	1		4	8	2	15	2				12	31	10	55	
アフリカ																					
エジプト				4		4				3	1	4							7	8	
スーダン				2		2				1		1							3	3	

国又は地域別外国人留学生数

平成19年5月1日現在

国名又は地域名	国 費						私 費						合 計						総計		
	学部		大学院等		小計	学部		大学院等		小計	学部		大学院等		小計						
	学生	研究生等	修士	博士		研究生等	学生	研究生等	修士		博士	研究生等	学生	研究生等		修士	博士	研究生等			
チュニジア			1	2		3											1	2		3	
アルジェリア										1	1									1	1
ケニア									1	1	2						1	1		2	
タンザニア	2		1			3						2								3	
コンゴ民主共和国									1		1						1			1	
ナイジェリア					1	1													1	1	
エチオピア				1	1	2												1	1	2	
ウガンダ									1		1						1			1	
マリ									1		1								1	1	
モザンビーク			1			1											1			1	
小計	2		3	9	2	16			3	5	3	11	2				6	14	5	27	
オセアニア																					
オーストラリア	4		8	4	4	20							4				8	4	4	20	
ニュージーランド			3		2	5			2		1	3				2	3	1	2	8	
小計	4		11	4	6	25			2		1	3	4			2	11	5	6	28	
北米																					
カナダ				4	3	7			2	1	4	7					2	5	7	14	
アメリカ合衆国	1		5	6	9	21	2	3	3	5	10	23	3	3			8	11	19	44	
小計	1		5	10	12	28	2	3	5	6	14	30	3	3			10	16	26	58	
中南米																					
メキシコ			2	2	1	5						1					2	2	2	6	
コスタリカ			1			1											1			1	
ブラジル	4		11	8	10	33			1	1	2	2	4				12	9	10	35	
パラグアイ	1					1	1				1	1	2							2	
アルゼンチン			1	1	1	3											1	1	1	3	
チリ			2	2	4	4			1		1	2				1	2	3	6	6	
ペルー				3	2	5					1	1					4	2	6	6	
エクアドル					1	1													1	1	
コロンビア			1	1	1	3			4		4	4					5	1	1	7	
ベネズエラ			1		3	4											1		3	4	
パナマ					1	1													1	1	
トリニダード・トバゴ			1			1											1			1	
ドミニカ				1		1												1		1	
ハイチ			1			1											1			1	
小計	5		20	19	20	64	1	1	5	3	1	11	6	1			25	22	21	75	
ヨーロッパ																					
フィンランド	2					2							2							2	
スウェーデン				1	1	2	1			1	5	7	1					2	6	9	
ノルウェー											3	3								3	3

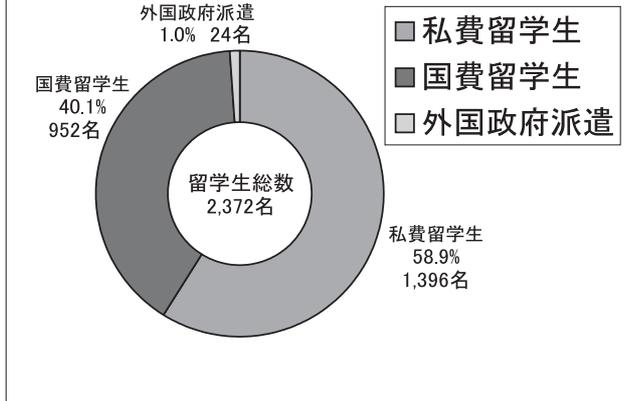
国又は地域別外国人留学生数

平成19年5月1日現在

国名又は地域名	国 費					小計	私 費					小計	合 計					総計
	学部		大学院等				学部		大学院等				学部		大学院等			
	学生	研究生等	修士	博士	研究生等		学生	研究生等	修士	博士	研究生等		学生	研究生等	修士	博士	研究生等	
デンマーク					1	1												1
アイルランド										1	1							1
イギリス			3	3	4	10		3	1	2	6		3	4	5	4		16
ベルギー				1		1									1			1
ルクセンブルグ				1		1									1			1
オランダ				2	1	3				2	2	4			4		3	7
ドイツ	1		7	4		12		2	1	2	9	14		2	2	9	13	26
フランス			9	9	6	24		3	1	6	3	13		3	10	15	9	37
スペイン			3		1	4				3	3	3		3	3		1	7
ポルトガル			2	1	3	6								2	1	3		6
イタリア	2		1	4		7				2	1	3		2	3	5		10
ギリシャ			2	1		3								2	1			3
オーストリア				4	1	5									4	1		5
スイス				3	1	4		1		2	2	5		1		5	3	9
ポーランド			1	3	1	5			1		1				2	3	1	6
チェコ				4		4									4			4
ハンガリー	2		2	1	3	8			1		1		2		2	2	3	9
セルビア				1		1									1			1
ルーマニア	2		4	1		7				2	1	3		2		6	2	10
ブルガリア	3		3	1	1	8			1		1	3		3	2	1		9
アルバニア									1		1				1			1
ロシア	2		5	4	3	14				5	5	2		5	9	3		19
エストニア				1		1											1	1
リトアニア					1	1											1	1
スロバキア			1		1	2								1			1	2
ウクライナ			1			1								1				1
ウズベキスタン									1	1	2				1	1		2
カザフスタン	2					2	1				1	3						3
ベラルーシ	1		1	1		3						1		1	1			3
クロアチア				1		1									1			1
スロベニア				1		1					1	1			1	1		2
ボスニア・ヘルツェゴビナ				1		1									1			1
キルギス			1			1									1			1
タジキスタン				1	1	2										1	1	2
小計	14		37	57	40	148	2	9	5	30	29	75	16	9	42	87	69	223
合計	116		236	409	191	952	116	31	423	619	231	1,420	232	31	659	1,028	422	2,372

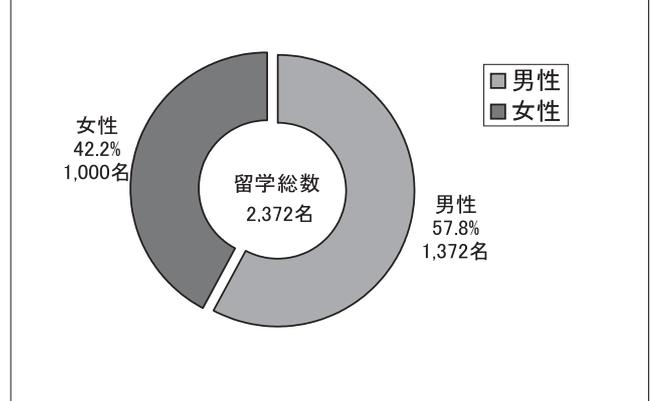
平成19年度外国人留学生種別内訳

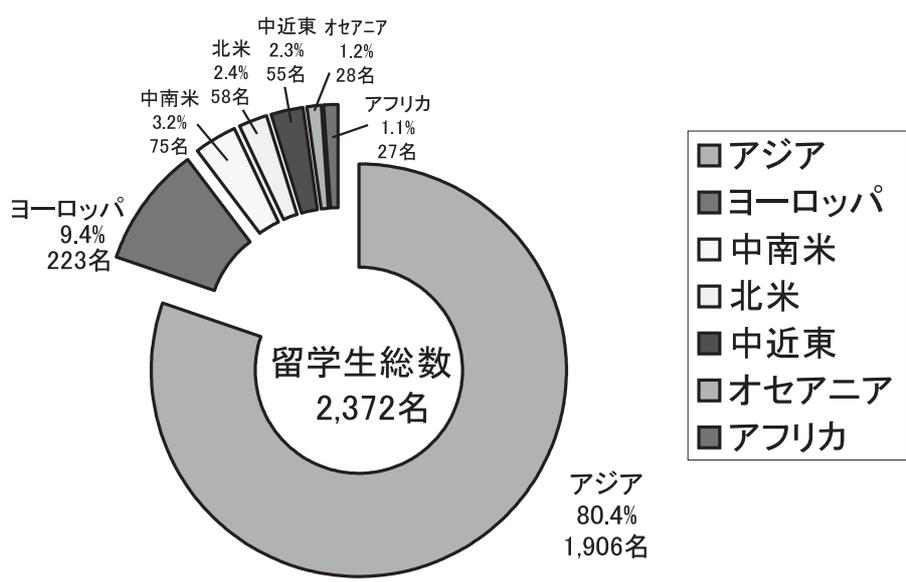
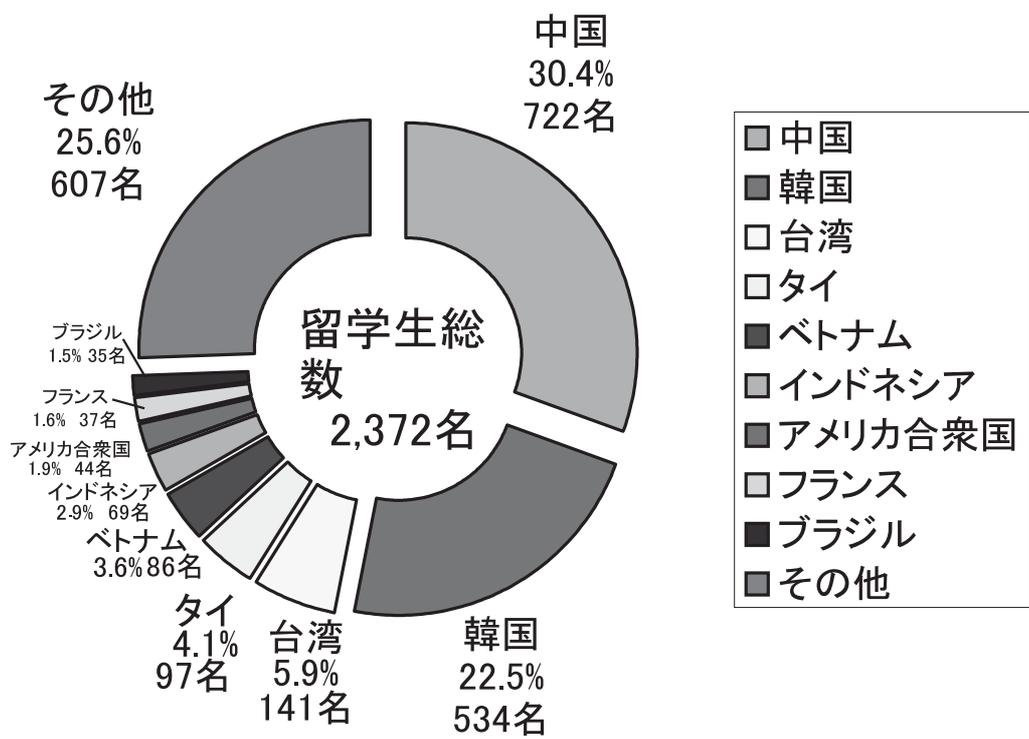
平成19年5月1日現在



平成19年度外国人留学生男女別内訳

平成19年5月1日現在







## 第30回 進化を続ける「UTサイト」

UT購買サイトは、この6月で運用期間が丸1年となりました。この1年を振り返ると、UT購買サイト・UT試薬サイトとも当初の期待値までとはいきませんが、利用は着実に伸びています。この伸びに、私たちは「意識変化」を感じています。調達本部としても、この意識変化の追い風となるよう、サイトに数々の工夫を施してきます。今回は、そんな話をまとめてみました。

### ☆「UT購買サイト」の進化

#### その1：「Mac」が使えるようになりました。

「Mac対応システム」へ利用登録すると、Mac端末からWindows環境で「UT購買サイト」を利用できるようになりました。詳細は、「経費精算システム」のHPで確認してください。

#### その2：ID登録時に会計情報コードも登録できます。

新規ID登録用の申請書に「会計情報コード」を記載すれば、ID発行時にコードが自動登録されるようになり、従来より発注までの手順がスムーズになりました。

#### その3：商品カタログ閲覧用IDの発行を検討中です。

「発注はしないけどカタログは見たい」という要望が多いことを受け、カタログの閲覧だけが可能なIDの準備を進めています。「早く商品を見たい」という方もいるかと思いますが、少々お待ちください。

#### その4：「出前説明会」を開きます。

サイトの詳しい説明を希望する部署や研究室に、調達本部の職員やサイト管理会社の担当が出向いての説明会を実施しています。これは両サイトとも共通です。「説明を聞きたい」という方は、調達本部まで連絡をください。

### ☆「UT試薬サイト」の進化

#### その1：「学生ID」を発行します。

「学生ID」の発行もかなりの要望をいただいています。学生さんは、当然ながら大学資金は使えません。従って物品の「発注」は出来ません。しかしながら、大学側では「教員」の代理として商品選択をすることは可能と判断しました。本学共通IDを持つ学生さん（学部学生は除く）に限りカタログの閲覧や商品の選択を可能とするIDの発行を計画しています。

#### その2：実験用の消耗品も充実させてます。

実験には試薬に合わせて消耗品も必要です。これらがセットで発注でき、納品されるとあれば至極便利な話です。試薬サイトではこれを実現させるため、消耗品カタログの充実を進めています。詳細はWebで確認ください。

#### その3：グループ登録が可能となりました。

研究室などで、商品情報や発注情報を共有できるようになりました。希望する方は、サプライヤへ相談を。

調達本部は、サイト機能の向上に努力しています。今後ご意見・要望をドシドシとお寄せください。



## 教科書作成プロジェクト

水沢 光

科学技術インタープリター養成プログラム特任助教

インタープリター養成の取り組みは、国内ではここ数年で本格化したもので、その教育内容については、いまだ標準カリキュラムなどがあるわけではない。こうした状況のなか、本プログラムでは、プログラム開始の平成17年度から、日々の授業とは別に、科学コミュニケーションの教科書作成作業を進めてきた。教科書作成にあたっては、単に科学の面白さを伝えるためのハウツーものではなく、関連する諸学問領域の知見も生かして、科学と社会の間で何を伝えていくべきか、わかりやすく見取り図を描くことを目指してきた。筆者は、藤垣裕子准教授・廣野喜幸准教授のもとで、当初から、教科書作成プロジェクトに携わってきたので、これまでの活動について簡単に報告したい。

教科書作成プロジェクトでは、まず、教科書作成の準備段階として、科学コミュニケーションに関わる文献調査をおこない、基本文献資料集を編集した。編集作業の中心を担ったのは、特任研究員（ポスドク）と技術補佐員（本学博士課程在学中の大学院生）で、その専門分野は、分子生物学・科学技術社会論・地理学・農業社会学・歴史学・社会学・医療人類学・科学人類学・教育学・科学技術史と多岐に渡っていた。各々が、自分の専門分野に近いところから、科学コミュニケーションに関連する文献を持ち寄ってみると、一見、「こんな文献が科学コミュニケーションに関係あるの？」と驚くような文献が多数集まった。集まった文献は、皆で精査し、分野ごとの偏りをなくすなど厳選したが、それでも出来上がった冊子は、電話帳ほどのボリュームとなった。資料集づくりに続いて、科学コミュニケーションに関する海外のジャーナルを、創刊号から輪読した。

こうした下準備を経て、現在、教科書作成作業を本格的に進めており、近く各章の具体的な節立てもほぼ決まることになっている。今年10月に本プログラムの第三期生を迎える時までには、簡易製本した「教科書」が準備できているはずである。この簡易版の教科書を、実際にプログラムの授業で用いながら、学生の意見や反応をもとに、さらに中身を充実させ出版する予定である。

★科学技術インタープリター養成プログラム  
URL:<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/STITP/>

## 著作物に関する学内規則の改正について

### 著作物等取扱規則

本学での活動において教職員及び学生の方が創作する著作物に関する著作権については、「著作物等取扱規則」という学内規則にその取扱いが規定されています。この度、著作物等取扱規則の一部が改正されましたので（平成19年3月22日より施行）、以下にその主な内容についてご紹介いたします。なお、規則の全文については、下記ホームページに掲載されていますのでご覧ください。

<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/regulation.html>

### 規則の改正ポイント

#### ①研究成果として生じたデジタルコンテンツ（CG画像やデジタル動画等）を職務関連著作物の対象に追加

従来の規則では、公的資金を用いて行った研究又は大学の施設を利用して行った研究において教職員等が作成した著作物のうち、プログラムやデータベース等に関する著作物のみが「職務関連著作物」に該当していました。

しかし、これらプログラムやデータベース以外にも、CG画像や動画等のように技術移転による社会貢献が適切と思われるものが存在し、また、政府の知的財産推進計画などにおいてもデジタルコンテンツに係る著作権の取扱を明確化することが求められています。そこで、これら社会的要請に答えるべく、その取扱いを規定しました。

これにより、研究成果として生じたデジタルコンテンツを学外に有償で提供・ライセンス等をする場合には、これまでのプログラム等の場合と同様、大学に届出を提出いただくこととなります（★右上図「職務関連著作物の取り扱い概要」参照）。ただし、大学における伝統・慣習も考慮し、学術論文、個人名義の出版物、講演及びそれらに付随する実験データの図表等は対象から除かれています。

#### ②著作物が発明等のその他の知的財産とともに活用される場合は、その著作物についての届出を提出すること

ソフトウェア関連の技術移転においては、特許権と著作権がセットでライセンスされる場合も見られます。その際、権利者が異なること等によってその技術全体としての活用に支障を来さないよう、他の知的財産権と共に活用される場合には、関連する著作物についても届出を提出いただくことを規定しました。

#### ③研究者の方々の裁量によって著作物を適切に管理することを明確化

著作権は権利の存続期間が長期にわたるうえ、著作物の種類によっては研究の進展に伴い累積的にバージョンアップされるものもあります。そこで、プログラム等に関する研究の継続性及び将来的な技術移転の可能性を踏まえ、研究者の方のご判断で管理が必要と思われる著作物を適切に管理いただくことを明確にしました。

#### 職務関連著作物の取り扱い概要

①ソフトウェア著作物等であること  
具体的には  
・プログラム  
・データベース  
・その他デジタルコンテンツ  
・半導体集積回路に関する電子回路ブロック等

+

②大学の資金その他の支援を受けた研究の成果 or 大学の施設を利用した研究の成果である

↓ ①かつ②の場合

③職務関連著作物に該当

↓

④学外者への有償提供等が生じた場合、事前に著作物届出書を提出\*

↓

\*部局による職務関連著作物の認定  
知的財産部による議定判定

⑤譲渡を受けると決定した場合、大学への権利譲渡

#### ④大学が講義等を録画及びインターネット配信する場合（e-learning等）における著作権の処理を規定

今後のe-learnig形式等の配信による教育活動・社会貢献の機会が増大することを考慮し、録画等により得られた映像を大学が利用する際に支障を来さないように、関与する著作権について必要な措置を行うこと、またその中に本学の教職員を著作者とする著作物が含まれる場合の取り扱いについて、新たに条文を設け規定しました。

#### ⑤大学が承継した著作権のライセンス等に伴い、相手先に著作物自体を提供する場合には、その複製物を知的財産部に提出すること

著作権のライセンス等の際には、大学から複製物（例えば、プログラムを格納した媒体）を相手先に提供する場合があります。提供した著作物自体の特定（証明）を事後的に求められること等に備え、契約時点における著作物の複製物を保管しておく必要があります。

そこで、ライセンス先に著作物を提供する際は、事前に複製物を知的財産部に提出する規定を新設しました。

### 研究者の方々へ

一言に著作物といっても種々多様なものが存在し、また技術の進歩に伴ってその形態や利用態様も変化するため、規則によって一律に規定しきれない部分もあります。

是非、現行規則に関する忌憚のないご意見・ご要望をお寄せいただくとともに、個別のケースで著作物の取扱い等に関してお困りの際にはいつでもお問い合わせください。

連絡先：産学連携本部（研究協力部 産学連携課）

ホームページ：<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

※「東京大学トップページ」上で「産学連携本部」をクリック

# Step by Step



## 第2回 現場から見る東大基金

渉外本部長である高橋理事からのメッセージでスタートした本連載です。第2回の今回は東大基金を取り仕切る、渉外グループ長の飯塚さんに登場していただきました。

### 現場に立つ職員から見る東京大学基金

飯塚 英一郎  
総務部 渉外グループ長

私達渉外グループ員の業務は、法人や卒業生などに対する渉外（募金）活動をはじめ、渉外本部全体の企画・管理・運営など、基金全般に及びます。2年3ヶ月前、当グループ設置とともに着任した私にとっても、大学に勤めて約30年になりますが、初めて経験する仕事が多くあります。なかでも法人・卒業生の方々と総長・役員をはじめ本部事務各部署・各部局の教職員の方々と、基金を含めた広い意味での「渉外〔社会と大学を結ぶ〕」に関する様々な連絡・折衝・調整が業務の大きなウェイトを占めております。寄附者の意向により話し合いを進めているうちに寄附ではなく共同研究やフォーラム共催という形になることもあります。

私を含め、多種多様なお願いをする当グループの活動に対し関係する教職員の方々からはいつも温かいご協力、応援をいただいていますし、また、学外の寄附者の方々なども電話やメールなどで日々接しております。多くの場合は「激励」ですが、なかには手厳しい苦情もあります。また、質問等も必ずしも定例ではなく、寄附金控除などの税務相談を含め広範囲で多彩であります。また、「お金」のこともあり、日々勉強も欠かせません。寄附者と直接やりとりをすることにより多くのことを学ぶことができるし、そこがこの仕事の楽しさでもあると思っています。



共催によるフォーラム(於: 安田講堂)

基金による事業としては、奨学金制度の「中国育英基金」の奨学金給付が前年度から始まりました。また、今年度内には正門・赤門間に「情報学環・福武ホール」も竣工する予定です。このように事業の「形」が皆様の目に触れるように整いだと、さらに身近に「東京大学基金」を感じていただけるようになると思います。



寄附についての記者会見

東京大学基金設立以来、現場の先頭に立っては2年半、職員の中で飯塚グループ長ほど渉外活動の大変さをご存知の方はいません。そんな第一線からのメッセージ、みなさまに届きましたでしょうか。(鈴木)

今年度で「130（ワンサーティ）キャンペーン」は終わりますが、東京大学基金は「恒常的かつ大規模な大学基金（エンダウメント）」という理念で未来に向い永く続きます。

これからもホームページなどを通じて「基金」の情報をお知らせしますので、折りに触れご覧いただければ幸いです。

## 基金最新情報

4,518件 9,174,736,301円

(内教職員 1038件)

(6月20日現在申込)

教職員参加率 14.2%

連絡先: 渉外本部 鈴木、堀越  
電話: 内線21247(外線03-5841-1247)  
HP: <http://utf.u-tokyo.ac.jp/index.html>

※「東京大学トップページ」上で「東京大学基金」をクリック

## コミュニケーションセンターだより No.36

### ■新商品のご紹介

「東京大学案内。」発売しました。  
東京大学が製作した大学案内DVDです!!



### ■「東京大学案内。」

●販売価格: 1,260円(税込)

#### CONTENTS

東京大学概要  
社会人・一般の方へ  
受験生の方へ  
卒業生の方へ  
企業の方へ

収録時間は30分で、東京大学をより深く知っていただける内容となっています。また、「社会人・一般の方へ」のご案内の中で、コミュニケーションセンターも紹介されています。

近日、コミュニケーションセンター内に、視聴コーナーを設ける予定です!!是非一度ご覧下さい。

### ■UTCCスタッフ紹介

~Part 8~

毎日暑い日が続いていますね!いつでもコミュニケーションセンターに涼みに、雨宿りに、お気軽にお立ち寄り下さい。学生スタッフ一同、お客様の笑顔を励みに頑張っております。店頭にお立ち寄りの際は是非お声を掛け下さいませ!



普段、東京大学に通っていても、東京大学のことを知る機会は少ないものです。

UTCC勤務時、学内外の方と接することで、東京大学を見つめなおすいい機会になっています。

最近暑い日が続いていますね。我々UTCCスタッフ一同オリジナルTシャツに衣替えしました。

店頭でも好評販売中のこのTシャツ、東京大学でのクールビズに一役買えるのでは?と密かに期待しております。

大学院農学生命科学研究科  
農業資源経済学専攻  
食料資源経済学研究室  
修士1年

加藤 史彬

(担当: コミュニケーションセンター 吉岡)



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター  
The University of Tokyo  
Communication Center

OPEN: 月曜~土曜 10:30~18:30

電話: 03-5841-1039

<http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp>

# ワタシのオシゴト / 第16回

Rings around the UT

大学院理学系研究科・理学部 事務部庶務係

奥山 明さん

## 充実した仕事と休日



理学部といえばカミオカンデ

理学部に配属になって1年が経ちます。教職員の勤務時間管理、健康管理、レクリエーション、簡単な旅費入力等が主担当となっています。理学部には10を超える専攻・附属施設があり、さらに環境安全研究センター、遺伝子実験施設、素粒子物理国際研究センターの事務担当者と本部間の連絡・調整もする必要があります。

庶務という仕事柄、教職員の方々と接する機会が多く、相手の立場に立ち、少しでもお役にたてればと思い仕事をしています。そのうえで「ありがとう」の言葉をいただいた時や知り合いが増えていくことがとても大きなやりがいとなっています。

また、夏は草野球、冬はスノーボード満喫した休日を過ごしています。草野球では職員チーム・東大フラミンゴに所属し、上部リーグへの進出を目指して頑張っています(野球やりたい方、一緒に野球しませんか?)。



野球チーム・フラミンゴのメンバーと

出身地: 東京都昭島市

自分の性格: 楽天的 血液型: O型

次回執筆者のご指名: 赤坂絵美さん

次回執筆者との関係: フラミンゴのメンバー・マネージャー(?)

一言紹介: いつも笑顔で全て包み込んでくれます。



## 『学内広報』の40年を探る Part.1

『学内広報』は、1968(昭和43)年10月に『資料』として発行され、1969(昭和44)年7月 No.38からは、名前が『学内広報』に変わりました。数えて今回で 第1360号!

東京大学の歴史を調べるには『東京大学百年史』は欠かせませんが、現況を知らせるための『学内広報』であっても、積み重ねれば大切な歴史資料のひとつになります。私にとっては大切な宝箱のようであり、愛読書!? です。

『学内広報』の表紙写真に意外な発見があったりします。～30年前の1977(昭和52)年を開いてみました～

☆「東大前の都電」 <No.380>

東大前の本郷通りに電車が走ったのは、1913(大正2)年からで、1971(昭和46)年3月17日に廃止されたとあります。また、停留所名は高等学校前→帝大農学部→東大農学部へと変わり、東京大学の歴史と共に変遷していると記されていました。そういえば、小説や文献の中にもときどき登場するけれど「これが都電かあ。」と思わずナツクです!

☆「教養学部オルガン竣工記念演奏会」 <No.367>

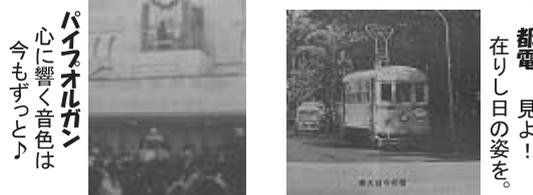
900番教室でのパイオルガンによる演奏会の様子が写され、【本学の学生のみならず、縁あってこのオルガンの音を聴くすべての人の心の中に、遠い未来に向けて発芽する何かが植え込まれることを祈る】と綴られていました。オルガン演奏会は、先月6月28日に第111回を迎えています。毎回、入場前の長蛇の列そして満員の会場と聞きます。30年前の願いは、ずっと守られ受け継がれているのですね。

☆「大学を支える人々」 <No.383>

連載第1回目。海洋研究所の研究船「白鳳丸」内の機関士2人の姿がありました。毎回、全国で活躍している方々が紹介されて、職場の様子がリアルに映し出されています。この連載は1981(昭和56)年まで35回に渡り続きました。現在発行の『学内広報』のなかでも、コラム「ワタシのオシゴト」が人気の方です。仲間の頑張る姿を通して、東京大学の現状を知り、さらには自分自身の仕事への意欲も、大きく高められるのではないかと考えます。

広報センターでは、各年度の合冊版を閲覧できます。時間があったら、ぜひご覧いただきたいと思います。何気なくめくったそのページに「あらッ?これは若い時の〇〇さん..」なんて、写真を掘り出すこともあり!

～次回へ続くかもしれない!?～



パイオルガン  
心に響く音色は  
今もすつと

都電  
見よ!  
在りし日の姿。



# INFORMATION

## シンポジウム・講演会

### シンポジウム・講演会

大学院医学系研究科・医学部

### 創立130周年記念事業・国際シンポジウム International Symposium on Advanced and Integrative Life Sciences

理学系・薬学系・分生研・医科研・医学系附属疾患生命工学センター共催にて、創立130周年記念事業として、以下の要領にて国際シンポジウムを開催します。

複雑系を特徴とする生命の全体像を理解するためには今後、学際的で統合的な研究の推進による新しい生命原理の解明や概念の創出が益々重要となります。そのために本学を主体とする新研究体制を構築し、それによって生命科学に新展開をもたらす社会にも広く貢献するための基盤づくりを目指して本シンポジウムを開催します。ぜひ、ご参加ください。

日時：7月10日（火）13:00～17:40

場所：医学部教育研究棟・鉄門記念講堂

対象：学内外研究者および学生

参加費：無料

詳細：

<http://www.cdbim.m.u-tokyo.ac.jp/news/Symposium130th.pdf>

問い合わせ：医学部長室（内線23300）

直通：03-5841-3300

E-mail：[dean@m.u-tokyo.ac.jp](mailto:dean@m.u-tokyo.ac.jp)

プログラム概要：（英語：通訳なし）

司会：谷口維紹教授（医学系研究科）

講演者および演題：

1. 山本正幸教授（理学系研究科）

“Regulation of meiosis by selective elimination of messenger RNA”

2. 廣川信隆教授（医学系研究科）

“Integrative Biology of Kinesin Superfamily Molecular Motors, KIFs: Structure, Dynamics and Functions”

3. 豊島 近教授（分子細胞生物学研究所）

“Structural basis of ion pumping by Ca<sup>2+</sup>-ATPase of sarcoplasmic reticulum”

4. Dr. Alan Aderem (Institute for Systems Biology, Seattle, USA) ;

“A Systems Approach to Dissecting Immunity”

5. Dr. Arne Ostman (Karolinska Institute, Sweden) ;

“PDGF-dependent cancer fibroblasts and pericytes as novel cancer drug targets”



## シンポジウム・講演会

社会科学研究所

### 「地域主義比較プロジェクト国際シンポジウム」開催のお知らせ

社会科学研究所は全所的プロジェクト研究「地域主義比較プロジェクト」の国際シンポジウムを下記の次第で開催致します。

「地域主義比較プロジェクト」は、ヨーロッパ、アメリカ、東アジアの地域主義を比較研究してきました。今年はその総仕上げとして、東アジアの今後の地域主義のあるべき姿を議論します。「東アジア憲章案」を提示し、今後の東アジア地域主義のあり方への提言を行います。

2007年CREP国際シンポジウム  
「東アジア地域主義の将来—東アジア憲章の提案—」

◇日時：7月21日（土）13:00～17:30

◇会場：本学弥生講堂一条ホール

◇入場料：無料

◇使用言語：英語（日英同時通訳あり）

◇プログラム

7月21日（土）

第1部（13:00～14:20）

現状と憲章案

司会：末廣 昭（社会科学研究所）

報告1「東アジア統合の現状」

丸川 知雄（社会科学研究所）

報告2「東アジア憲章の提案：理念の構想」

中村 民雄（社会科学研究所）

須網 隆夫（早稲田大学）

白井 陽一郎（新潟国際情報大学）

佐藤 義明（広島市立大学広島平和研究所）

第2部

討論（14:40～16:40）

司会：佐々木 弾（社会科学研究所）

コメンテーター

マーティン・ホランド（カンタベリー大学）

ダグラス・ウェバー（インシアード）

キムベン・ファー（早稲田大学アジア研究機構）

陸 建人（中国社会科学院アジア太平洋研究所）

胡 欣欣（中国社会科学院日本研究所）

山元 一（東北大学）

レセプション（16:40～17:30）

◇お申し込み・お問い合わせ

電話、FAX、メールで事前登録をお願いします。

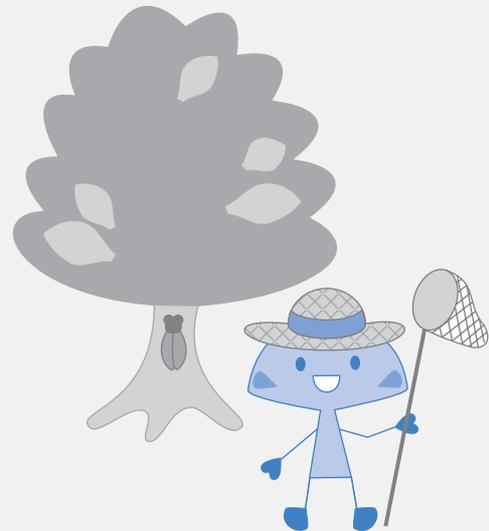
社会科学研究所 CREP事務局

<http://project.iss.u-tokyo.ac.jp/crep/confj07.htm>

（申込用紙配布中）

TEL: 03-5841-4874 / FAX: 03-5841-4905

E-mail: [crep@iss.u-tokyo.ac.jp](mailto:crep@iss.u-tokyo.ac.jp)



## 募集趣旨

東京大学は、創立130周年を記念して、学生の皆さんから、学生の皆さんならではの創意にあふれ、かつ東京大学の130周年に実施されるにふさわしい事業企画案を募集します。2次にわたって行われる選考を経て採用された企画は、企画者自身も参画の上、実施されます。

本事業の目的は、東京大学憲章の精神に基づき学生の皆さんに本学の運営にも積極的に参加していただき、皆さんのアイデアと発想の力を活力あふれるキャンパスの創出に生かすことにあります。

斬新なアイデアに富む企画が多数寄せられることを期待しています。

1 主催	東京大学
2 募集内容	東京大学の130周年にふさわしい事業、すなわちプロジェクトやイベントの企画（例えば、課外活動、国際交流、地域交流、キャンパスの美化、安全強化、バリアフリー化などを推進する企画。もちろんこれら以外のものであってもよい）
3 応募資格	本学の学生である個人もしくはグループ
4 評価基準	独創性、実施可能性、社会貢献性等を総合的に評価
5 選考	<p>選考は、学生生活委員会のもとに設置した東京大学130周年記念学生企画コンテスト実施委員会が行います。</p> <p>(1) 書類選考（1次選考）</p> <p>① 提出方法：「応募用紙」に必要事項を記入の上、電子メールの添付ファイル（WORDファイル）による送付、学生企画コンテスト事務局への持参または郵送により提出のこと。</p> <p>*「応募用紙」は本学ホームページよりダウンロードが可能です。 詳細は、下記ホームページに記載の「提出上の注意」を参照。 <a href="http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/stu/gakuseikikaku/index_j.htm">http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/stu/gakuseikikaku/index_j.htm</a></p> <p>② 提出期限：平成19年9月28日（金）必着 *応募用紙を受領した時は、応募者（団体）に文書（受領確認書）でお知らせします。</p> <p>③ 書類提出先：学生企画コンテスト事務局 教育・学生支援系学生支援グループ学生生活チーム（担当：岡田） 〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1 TEL：03(5841)2513 fax：03(5841)2519 e-mail：gakusei-kikaku@adm.u-tokyo.ac.jp</p> <p>④ 書類審査合格者の発表：平成19年10月中旬頃、ホームページに掲載します。</p> <p>(2) プレゼンテーション（2次選考） 書類審査合格者には、プレゼンテーション（10分程度）を行っていただき、その内容も踏まえて、受賞者を決定します。 プレゼンテーション実施時期 平成19年11月頃 [場所：未定]</p> <p>(3) 賞：優秀賞……3点程度……賞状及び副賞 佳作………数点………賞状</p>
6 審査結果の広報と表彰式	2次審査の結果を応募者に報告し、11月頃に表彰式を行う予定です。受賞者及び受賞企画の内容は、本学のホームページや学内広報に掲載します。
7 受賞企画の実施	優秀賞に選ばれた企画の実施に際しては、大学から資金援助を受けることができます。（3件、総額600万円程度を予定しています）。 企画の実施に向けては、事務局関係者等と協議していただきます。
8 お問い合わせ	本コンテストについての質問は、学生企画コンテスト事務局までお願いします。
9 その他	他のコンテストに既に応募していたり、他人の企画を模倣したと判断されたりしたものは、審査対象としません。授賞後にこれらの事実が発覚した場合は、授賞を取り消します。

# お知らせ

## お知らせ

学生部

### 柏Ⅱキャンパス運動場の利用が始まりました！

かねてから整備の進んでいた柏Ⅱキャンパス運動場の利用がよいよ始まりました。柏Ⅱキャンパスは緑に囲まれたとても静かな所にあります。ラグビー、サッカー、アメフト、レクリエーション等に使用できる天然芝グラウンドがあります。



芝は植えたばかりでとてもきれいです

検見川グラウンド同様、用具と共に貸し出しを行います。利用予約は利用日の2週間前から行っておりますので、東京大学運動会窓口（内22511）までご連絡ください。付設の体育館内にはトレーニング設備があり、筋力トレーニングやストレッチなどができます。また、スプリントトレーニングマシン（足が速くなる）を始め小林寛道名誉教授が開発したトレーニング機器もあり、体幹筋を鍛えるなど他のスポーツジムではできないトレーニングができます。2階には多目的ホールもあり、ミーティングや体操などができます。



最新機器の揃ったトレーニング室

こちらを利用できる日（学内開放）は月曜、水曜、金曜の17時から19時までとなります。初めての方はインストラクターが指導します。

詳細につきましては、学生課体育チーム（内22510）または柏Ⅱキャンパス事務室（04-7132-3979）までお問い合わせ下さい。（9:00～16:30）皆様のご利用をお待ちしております。

### 【運営費】

学内者 運営費	利用者区分	運営費（1日）
	附属中高生	250円
	学生	300円
	教職員	400円

学外者 運営費	利用者区分	運営費（1日）
	中学生以下	250円
	高校生及び 65歳以上	350円
	大学生以上 (65歳未満)	450円

多目的 ホール	利用時間	運 営 費
	1 日	8,200円
	半 日	4,200円
	2 時間	2,100円

### 【体育施設使用料】（学外者のみ）

施 設 名	利用時間	全 面
ラグビー場	1 日	5,770円
	半 日	2,880円
	2 時間	1,440円
トレーニング 施設	1 回	150円
多目的 ホール	1 日	5,520円
	半 日	2,760円
	2 時間	1,380円

## お知らせ

### 海洋研究所

#### 「一般公開」のお知らせ

海洋研究所では、海洋科学に関する情報を公開し、研究所への理解を深めていただくために一般公開を下記のとおり行います。

子供から大人まで楽しめる企画を多数用意して、海洋と地球環境とのかかわりなど「海」の重要性についてお伝えしたいと思います。東京都中野地区と、岩手県大槌地区でそれぞれ下記の日程で開催いたします。多数の方々のご来場をお待ちしています。



## 海洋研究所 一般公開のお知らせです

<岩手県大槌地区>

日時：7月16日（月・祝日「海の日」）10:00～15:00

場所：国際沿岸海洋研究センター  
（岩手県上閉伊郡大槌町）

テーマ「三陸の海と生き物を知ろう！！」

- 所内見学ツアー
- 体験！ロープワーク
- お魚ふれあいコーナー・沿岸生物・各種パネルなどの展示
- 研究船「弥生」見学コーナー
- 講演（13:00～）「海と地球環境」（福田秀樹 助教）

<東京都中野地区>

日時：7月21日（土）12:00～16:30

場所：中野キャンパス海洋研究所

- 市民講座（13:00～）  
海に生きる私たちの祖先（窪川かおる教授）  
食べて美味しい魚の話  
ーウナギとクロマグロの回遊ー（木村伸吾 教授）
- 小学生向けお話と手品「海の恵み」
- 模擬実験：雨粒をつくる、海水に溶ける二酸化炭素
- 体験！ロープワーク、海藻押し葉をつくろう
- 研究室見学ツアー
- 展示：ミニ水族館、各種パネル・標本、観測機器展示

詳しくは、ホームページをご覧ください。

<http://www.ori.u-tokyo.ac.jp/info/event/uminohi2007/>

## お知らせ

大学院理学系研究科・理学部

### 第56回小石川植物園市民セミナーのご案内

小石川植物園後援会が主催する第56回小石川植物園市民セミナーが下記の通り開かれます。今回は日光植物園での開催で、本学大学院理学系研究科の谷友和博士による講演です。講演後には、谷先生の案内による園内散策も予定されています。本学関係者に限らず、どなたでも参加できます。どうぞ皆様お誘い合わせの上、是非ご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

講師：谷 友和（理学系研究科附属植物園博士研究員）  
演題：「ウバユリとオオウバユリの大きさの違いに迫る」  
日時：7月28日（土）13:00～15:00  
場所：理学系研究科附属植物園日光分園（日光植物園）  
庁舎内和室  
参加費：無料（但し、一般の方は入園料が必要です）

参加申込方法：7月23日（月）までに往復葉書または電子メールにて後援会までお申し込み下さい。返信葉書ないし返信メールが招待状となります。なお参加ご希望多数の際は、お申し込み順に従い受付が締め切られることがあります。悪しからずご了承下さい。

主催・参加申込先：〒112-0001 文京区白山3-7-1  
東京大学大学院理学系研究科附属植物園内  
小石川植物園後援会  
[koishikawa-koenkai@koishikawa.gr.jp](mailto:koishikawa-koenkai@koishikawa.gr.jp)

問い合わせ先：理学系研究科附属植物園  
杉山宗隆准教授（03-3814-0368）

## 西野文雄 名誉教授

本学名誉教授 西野文雄先生は、平成19年5月6日逝去されました。享年71歳でした。

先生は、昭和11年3月18日にお生まれになり、昭和34年3月に東京大学工学部土木工学科をご卒業後、昭和36年3月同大学院土木工学専攻修士課程を修了し、昭和39年10月には米国リーハイ大学大学院博士課程を修了されました。昭和39年7月より米国リーハイ大学講師を務め、昭和40年4月には東京大学講師に任ぜられました。昭和43年2月に助教授に、昭和55年10月に教授に昇任されました。昭和59年4月から昭和61年8月までアジア工科大学副学長を務められました。平成3年4月より埼玉大学大学院政策科学研究科教授を併任され、平成6年7月より埼玉大学大学院政策科学研究科教授を専任となりました。平成9年10月より政策大学院大学教授に任ぜられ、平成17年4月からは政策大学院大学学事顧問を務められました。昭和56年4月から昭和57年7月まで東京大学総長補佐、平成5年4月から平成6年6月まで東京大学留学生センター長、平成8年4月から平成12年3月まで埼玉大学大学院政策科学研究科長を歴任されました。

先生のご専門は構造工学であり、薄肉断面部材の基礎理論、破壊確率に基づく設計論等に関わる研究を行い、構造工学の発展に大きく貢献されました。構造工学、橋梁の専門家として、国際的な橋梁建設



事業に貢献するとともに、日本の橋梁技術の高さを世界に示されました。構造工学の技術者・研究者の国際交流の場として、EASEC (East Asia-Pacific Conference on Structural Engineering and Construction) の創設に中心的な役割を果たし、日本の技術者の国際的な活躍支援に尽力されました。さらに、東南アジア・パシフィック技術者連合会 (FEISEAP) の理事として、国際技術士資格、APEC Engineersの枠組み作りにおいて指導的役割を果たされました。また、先生は英語による教育を前提とした留学生教育プログラムを日本で初めて創設されました。東京大学社会基盤学専攻の留学生卒業生は550名を越え、その多くは母国で活躍しています。その成功は留学生教育プログラムの普及につながりました。工学系の人材養成を中心とした様々な政府開発援助、民間資金活用事業等に関する研究を行うとともに、政府の各種委員会委員、委員長を歴任され、その推進に大きく貢献されました。

先生のごようなご業績に対して、平成3年8月に国際協力事業団総裁より感謝状、平成6年10月に土木学会国際貢献賞、平成13年7月には外務大臣より表彰状、平成19年5月には土木学会功績賞が贈られています。

先生は組織や制度を改革し、より良いものとするために全力を傾けてこられました。多くの革新的なアイデアをご発案になり、実現してこられました。その前向きな姿勢は最期まで変わることがありませんでした。いつでも先頭に立って新しい領域を切り開き、後輩をお導きになってこられた先生のご逝去は哀惜の念に耐えません。ここに謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈り申し上げます。

(大学院工学系研究科)

# EVENT LIST

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
シンポジウム 「第2回東京大学の海研究—海から未来を考える—」 ※1359号参照	7月4日(水) 9:30~	鉄門記念講堂	事務局：大学院工学系研究科環境海洋工学専攻 村山英晶 TEL/FAX：03-5841-6514 E-mail：murayama@giso.t.u-tokyo.ac.jp
安全講演会	7月4日(水) 13:00~16:00	弥生講堂	主催：環境安全本部・大学院農学生命科学研究科 TEL：(内線)21051、21052 (外線)03-5841-1051、1052
精神衛生・看護学教室50周年記念シンポジウム「精神保健の100年：50年の到達点と今後50年の挑戦」	7月7日(土) 10:00~17:00	山上会館2F 大会議室	大学院医学系研究科精神保健学・看護学分野 森(助教)、中嶋(技術専門職員) TEL：03-5841-3521/FAX：03-5841-3392 URL：http://plaza.umin.ac.jp/heart/
東京大学130周年記念事業 大学院医学系研究科 国際シンポジウム International Symposium on Advanced and Integrative Life Sciences ※20ページ参照	7月10日(火) 13:00~17:40	鉄門記念講堂	http://www.cdbim.m.u-tokyo.ac.jp/news/Symposium130th.pdf 医学部長室 TEL：(内線)23300 (直通)03-5841-3300 E-mail：dean@m.u-tokyo.ac.jp
DBELS-EXTRA Technical Lecture Series for Young Scientists 第3期 イメージング ~細胞から個体まで~ 第9回「細胞観察から In Vivo Imagingの可能性」	7/12(木) 16:30~17:30	医学部2号館 小講堂	大学院医学系研究科疾患生命工学センター分子病態医学 宮崎 徹(担当：新井郷子、江上美保) TEL:03-5841-1436 E-mail: ekw@m.u-tokyo.ac.jp
文部科学省次世代IT基盤構築のための研究開発 第2回「革新的シミュレーションソフトウェアの研究開発」シンポジウム ※1359号参照	7月12日(木) 10:00~18:30 7月13日(金) 10:00~17:30	生産技術研究所 コンベンションホール	プロジェクト 事務局 TEL :03-5452-6661 FAX:03-5452-6662 E-mail: registration@rssi21.iis.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.rssi21.iis.u-tokyo.ac.jp/
21世紀COEプログラム「国家と市場の相互関係におけるソフトロー」第9回シンポジウム “Soft Law in Action: The Role of Private Ordering in Commercial Activities”	7月13日(金) 13:00~17:00 (受付12:30~)	東京国際フォーラム・ ホールD5	21世紀COEプログラム 「国家と市場の相互関係におけるソフトロー」事務局 E-mail: coe-law@j.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.j.u-tokyo.ac.jp/coelaw/
東大家族ケア研究会 第5回家族ケアフォーラム	7月13日(金) 18:00~21:00	医学部1号館 小講堂	大学院医学系研究科家族看護学分野内 東大家族ケア研究会代表 上別府圭子(事務局担当 尾関) TEL/FAX: 03-5841-3691 E-mail: todaikazoku-office@umin.ac.jp URL: http://www.m.u-tokyo.ac.jp/news/index.html
花園ハス祭(花園地区町内自治会連合会主催)	7月14日(土) 5:00~10:00	大学院農学生命科学研究科附属 緑地植物実験所	緑地植物実験所 問い合わせ専用PHS: 070-5580-5060 URL: http://www.a.u-tokyo.ac.jp/topics/hasu2.html
海洋研究所 一般公開 ※24ページ参照	7月16日(月) 10:00~15:00 7月21日(土) 12:00~16:30	16日：国際沿岸海洋研究センタ ー(岩手県上閉伊郡大槌町) 21日：海洋研究所	http://www.ori.u-tokyo.ac.jp/info/event/uminohi2007/
空間情報社会の到来：社会動向と空間統計学の普及 ※1359号参照	7月18日(水) 13:20~16:40	山上会館大会議室	空間情報科学研究センター 小口 E-mail: oguchi@csis.u-tokyo.ac.jp TEL:04-7136-4301
社会科学研究所 CREP国際シンポジウム ※20ページ参照	7月21日 13:00~17:30	弥生講堂(一条ホール)	社会科学研究所 CREP事務局 TEL: 03-5841-4874 FAX: 03-5841-4905 E-mail: crep@iss.u-tokyo.ac.jp URL: http://project.iss.u-tokyo.ac.jp/crep/confj07.htm
ナノフォトニクス総合的展開2007 ※1358号ページ参照	7月25日(水) 13:00~18:00	武田先端ビル5F「武田ホール」	ナノフォトニクス総合的展開事務局 担当：田村 TEL:03-5841-1670 FAX:03-5841-1140 E-mail:symposium2007@nanophotonics.t.u-tokyo.ac.jp URL: http://uuu.t.u-tokyo.ac.jp/jpn/index.html
第1回DBELSワークショップin雲仙・普賢岳	7月27日(金)夕方~ 7月29日(日)正午	長崎県雲仙市 雲仙観光ホテル	大学院医学系研究科疾患生命工学センター分子病態医学 科学部門・東大病院教育研究支援部共催 E-mail: dbels@m.u-tokyo.ac.jp http://www.cdbim.m.u-tokyo.ac.jp/news/
第56回小石川植物園市民セミナー ※24ページ参照	7月28日(土) 13:00~15:00	大学院理学系研究科附属植物園 日光分園(日光植物園)庁舎内 和室	小石川植物園後援会 Email: koishikawa-koenkai@koishikawa.gr.jp
人と技術を用いた高等教育の バリアフリーカンファレンス2007	7月28日(土) 9:30~18:45 29日(日) 8:30~16:00	生産技術研究所総合研究実験棟	バリアフリー支援室内 人と技術を用いた高等教育のバリアフリーカンファレン ス事務局 TEL:03(5452)5067 FAX 03(5452)5068 E-mail aito@rcast.u-tokyo.ac.jp 担当:伊藤
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
第35回生研公開講座イブニングセミナー 「都市と環境のフィールド調査の現場から」	5月11日(金) ~7月13日(金) (5月25日、6月1日を除 く各全曜日 全8回) 18:00~19:30	生産技術研究所 総合研究実験棟(A棟) 3階大会議室	生産技術研究所 総務・広報チーム TEL: 03-5452-6864/FAX: 03-5452-6071 URL: http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/
東京大学創立130周年記念事業特別展示 「遣丘と女神—メソポタミア原始農村の黎明」展	5月26日(土) ~9月2日(日) 月曜休館(月曜祝日 の場合は開館、翌日 休館) 10:00~17:00 (入館は16:30まで)	総合研究博物館 1階新館展示ホール	総合研究博物館 URL: http://www.um.u-tokyo.ac.jp/ (臨時休館の場合があるので、ホームページ要確認のこと)
文化資源学公開講座 「市民社会再生—文化の有効性を探る—」	6月8日(金) ~平成20年1月11日 (金) 全12回 18:40~20:20	本郷キャンパス 法文2号館2階1番大教室	大学院人文社会系研究科文化資源学研究室 http://www.l.u-tokyo.ac.jp/CR-K/
総合研究博物館公開講座 「植物・動物・社会—西アジア考古学からみたドメ スティケーションの始まり」	6/20(水)、6/26(火) 7/3(火)、7/10(火) 15:00~17:00	総合研究博物館 展示ルーム内講義室	総合研究博物館 TEL: 03-5777-8600/FAX: 03-5841-8451 E-mail: web-master@um.u-tokyo.ac.jp URL: http://www.um.u-tokyo.ac.jp/education/lecture_200706.html

# Contents

## 特集

- 02 本郷の「門」、駒場の「門」

## NEWS

### 一般ニュース

- 05 総務部  
春の公開講座「グローバルゼーション」  
大盛況のうちに終了
- 06 地球観測データ統融合連携研究機構  
韓国政府 8 省庁混成代表団、研修のため  
本学地球観測データ統融合連携研究機構  
(EDITORIA) を来訪
- 06 ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構  
東大 N E C 企業ラボつくば分室  
発足記念講演会を開催
- 07 人事部  
名誉教授の称号授与

### 部局ニュース

- 08 大学院数理科学研究科  
高木レクチャーが東大で開催されました
- 09 大学院農学生命科学研究科・農学部  
創立130周年記念事業シンポジウム  
「イネのバイオエタノール化による持続的  
社会の構築」開催される
- 09 医科学研究所  
第34回医科研創立記念シンポジウム  
開催される

### キャンパスニュース

- 11 研究協力部  
平成19年度外国人学生数一 国費外国人留  
学生数952人、私費外国人留学生数1,396人、  
外国政府派遣留学生数24人、在日外国人学  
生数182人一

- ◆ 表紙写真 ◆ 駒場 I キャンパス正門の旧一高  
マークから覗いた時計台  
(2 ページに関連記事)

## コラム

- 16 調達本部です 第30回
- 16 インタープリターズ・バイブル Vol.6
- 17 Crossroad～産学連携本部だより～Vol.19
- 18 Step by Step東大基金通信 第2回
- 18 コミュニケーションセンターだより No.36
- 19 Relay Column「ワタシのオシゴト」 第16回
- 19 龍岡門横丁 第18回

## INFORMATION

### シンポジウム・講演会

- 20 大学院医学系研究科・医学部  
創立130周年記念事業・国際シンポジウム  
International Symposium on Advanced and  
Integrative Life Sciences
- 20 社会科学研究所  
「地域主義比較プロジェクト国際シンポジ  
ウム」開催のお知らせ

### 募集

- 22 学生部  
創立130周年記念事業  
学生企画コンテスト

### お知らせ

- 23 学生部  
柏 II キャンパス運動場の利用が  
始まりました！
- 24 海洋研究所  
「一般公開」のお知らせ
- 24 大学院理学系研究科・理学部  
第56回小石川植物園市民セミナーのご案内

## 訃報

- 25 西野文雄 名誉教授

## 26 EVENT LIST

## 淡青評論

- 28 種蒔きか収穫か？

## 編集後記

このたび、学内広報スタッフ2名が交代します。今までお世話になった方々、ありがとうございました。途中リニューアルなどもあり、月2回の発行、完成したらすぐに次号の打ち合わせ・編集と、ひたすら作り続けてきたという感じがします。学内広報、まだまだ発展途上ですので、今後ともご支援とご協力をよろしくお願いいたします。(と)

今回、門の写真の撮りに行った時、これが最後の仕事になるとは思いもしませんでした。ようやく表紙に凝ったりする余裕(?)もでき、仕事が楽しくなってきた時期だったので少し残念ですが、老兵は去るのみです。フレッシュな次期編集長に乞うご期待を！(あ)



七徳堂鬼瓦

## 種蒔きか収穫か？

苦手な仕事が巡ってきた。教員なら誰でも立派な評論が書けるわけではないことを証明するには紙面がちょっと狭い。日頃なんとなく気にしていることを素直に思い出して書くことにした。

私のような実験科学系の研究者にとって、継続的な研究費の有無はまさに死活問題だ。グラントの審査方法自体には、利害関係、性、年齢等が考慮されたシステムが年々導入され、少なくとも数値的には公平さが整う方向にある。大型研究費が異常に競争的であることも、国の財源に限りがある

以上、ある程度仕方ない。気になるのは、研究テーマの縛りが益々強くなりつつあることだ。

トランスレーショナル研究や橋渡的研究が花盛りである。むろん、「基礎から応用へ」を支援するプログラムは必須であり、私自身も成熟期を迎えつつある一部のプロジェクトについては積極的に応用研究に発展させたいと願っている。しかしながら、科学技術政策との強い連動が気になる。予算運用の国民への説明責任は、「科学研究に対する国の支援が過去10年以上に及ぶ種蒔きと育成の期間を経て、今は収穫（成果還元）の時を迎えている」という「わかりやすい」説明をさせている。しかし、そんな時代ってあるだろうか？

研究の基本は種蒔きである。時代にも分野にも依らず常に基礎研究は芽吹くものであり、また無名数的な土壌ほど良く育つ。

言葉は悪いが、現行の大型研究費は、ヒモ付きテーマに対する自由競争か、自由テーマに対するヒモ付き競争が大半を占めている。重複制限や個人研究尊重の影響で（これらは賛同すべき点も多いが）、基盤的な研究費の維持も一発大型研究費に頼らざるを得なくなりつつある状況において、国主導の研究テーマの偏りに不安を感じる。「自由テーマに対する自由競争」に近いのは科研費の基盤研究だが、残念ながら潤沢とは言い難い。テーマの縛りなくレベルの高い基礎研究を支援する「東大発競争的研究グラント」などあれば、国のお手本にもなるのでは。

一條 秀憲（大学院薬学系研究科・薬学部）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

### [訂正]

学内広報において、一部誤りがありましたので訂正いたします。

関係部局および関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

No.1359 (2007.6.13)

裏表紙『淡青評論』の執筆者クレジット

誤：金森 修（大学院教育学研究科・法学部）

正：金森 修（大学院教育学研究科・教育学部）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1360 2007年6月27日  
東京大学広報委員会

〒113-8654  
東京都文京区本郷7丁目3番1号  
東京大学総務部広報課  
TEL：03-3811-3393  
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
<http://www.u-tokyo.ac.jp>